

2 輸送ネットワークの拡充

2-(1) 新線の開業と相互直通運転

新線の開業

2008年10月に京阪中之島線(天満橋～中之島間)が、2009年3月に阪神なんば線(阪神尼崎～大阪難波間)が、また、2010年7月には、京成成田空港線(成田スカイアクセス、京成高砂～成田空港間)が、2019年11月には、相鉄新横浜線(西谷～羽沢横浜国大)が開業しました。

相互直通運転

相互直通運転は、他の鉄道会社路線への乗り換え等の不便解消を図るほか、所要時間の短縮、ターミナルの混雑緩和などに大きな効果を発揮しています。

2009年3月に、阪神なんば線の開業により阪神線と近鉄線との相互直通運転が開始されました。また、2013年3月には東京メトロ副都心線と東急東横線との相互直通運転が開始されたことにより、東武東上線、西武池袋線・西武有楽町線、東京メトロ副都心線、東急東横線、横浜高速みなとみらい線の5社にわたる広域なネットワークが形成されました。

2019年11月に、相鉄新横浜線の開業により、相鉄線とJR線の相互直通運転が開始され、また、相鉄線と東急線を結ぶ連絡新線が建設されています。

2020年6月には、東武線と東京メトロ日比谷線相互直通の座席指定制列車「THライナー」が導入されました。



京成スカイライナー



近鉄線を走る阪神1000系



THライナー

☞ 参考資料P44～46

2-(2) 他交通機関との結節点の新設

各社では他交通機関との連携を図り、ネットワークを拡充する取り組みも見られます。

羽田空港が再拡張し本格的に国際化したことに対応し、2010年10月に国際線ターミナルビルに直結する京急空港線・羽田空港国際線ターミナル駅(現在は、羽田空港第3ターミナル駅)が開業しました。

また、京都縦貫自動車道・長岡京IC付近において、2013年12月に阪急京都本線・西山天王山駅が開業しました。同駅開業によって周辺地域の利便性向上のほか、高速バスストップで京都縦貫自動車道、名神高速道路などを走行する高速バスとの乗り継ぎや、併設したパーク&ライド駐車場を活用したマイカーから公共交通への乗り継ぎが容易になりました。



羽田空港第3ターミナル駅



西山天王山駅